

1 課

創造主は語られる

10月3日

安息日午後

9月26日

暗証聖句

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。(ヘブライ 1:1、2、新共同訳)

神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。(ヘブル 1:1、2、口語訳)

今週の聖句

創世記 1:27、28、創世記 3:1～8、ルカ 15:11～32、創世記 3:14～24、
出エジプト記 19:16～22、ヨハネ 10:27～30

今週のテーマ

デジタル技術のおかげで、私たちの多くが遠く離れた友人や親戚の顔を見ることができるようになりました。これは良いことです。しかし、何よりも直接会って話すほうがさらに素晴らしいです。私たちが集まり、抱擁を交わし、顔と顔を合わせて語り合うとき、そこには特別な何かが生まれます。

今週、私たちは、人間が創造主と直接対面し、深い交わりを持つために造られたことを思い起こすでしょう。しかし、罪はこの親密なつながりを遠い昔に破壊しました。神は、愛する被造物との交わりを回復するため、私たちに語りかける方法を備えてくださいました。神が人類と交わる最もよく知られた方法は、慎重に選ばれた代弁者、つまり預言者です。預言者は神のメッセージを私たちに明らかにします。こうした預言者は、しばしば聖書に書巻を残していますが、必ずしも全員がそうとは限りません。

神の究極的な計画は、私たちの内に神のかたち、罪によって打ち砕かれたかたちを回復することです。これこそが救済計画の本質、すなわち回復であり、それは、神が「義の宿る新しい天と新しい地」〔口語訳「義の住む新しい天と新しい地」〕(Ⅱペト〔ペテ〕3:13)を創造されるときに完成します。その時まで、神は今も私たちに語りかけ、それを成し遂げるためにご自分の預言者を用いられます。

Ⅱ ペト 3:13 (新共同訳)

3:13 しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。

Ⅱ ペテ 3:13 (口語訳)

3:13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。

日曜日 9月27日 エデンにおける交わり

創世記1章と2章には、天地創造の物語が記されています。神は美しい世界を造り、そこにアダムとエバを置かれました。それは創造の最後を飾る行為でした。人間は、地上のあらゆるほかの被造物とは異なりました。「神にかたどって」〔口語訳「神は自分のかたち」〕(創1:27)造られたからです。このようなことは、人間についてだけ言われていることで、例えば、鳥やほかの動物については言われていません。それゆえに人間は、心身ともに豊かな人生を送り、あらゆる形の愛を体験し、神ご自身との親しい交わりの中を歩むように造られました。

また、創世記2:18～23には、神がアダムのためにエバを創造されたと記されています。それは「人が独りであるのは良くない」〔口語訳「人がひとりであるのは良くない」〕(創2:18)と、神が言われたからです。つまり、人間は最初から社会的な存在として創造されたのです。現代の社会学者たちは、人間同士の交流が私たちの心身の健康に多くの恩恵をもたらす一方で、孤独は命取りになると教えています。

ですから、エバが創造されたあと、アダムが、「これこそ/わたしの骨の骨/わたしの肉の肉。これをこそ、女(イシャー)と呼ぼう/まさに、男(イシュ)から取られたものだから」〔口語訳「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう」〕(創2:23)と叫んだのも不思議ではありません。一人の男と一人の女が結婚によって結ばれる家族制度は、神が人間にお与えになった最初の社会制度であり、それによって全人的な関係と交わりを経験するためのものでした。サタンの主要な目的の一つが、常に最初に定められた家族の根本的な絆を破壊することであったとしても、決して不思議ではありません。

問1 創世記 1:27、28、2:15～17、3:9 を読んでください。エデンの園において神と人間の間には、どんな交わりが存在しましたか。

アダムとエバは、神と顔と顔を合わせる交わりを楽しみました。知性を持つ存在として、彼らは神と会い、その教えに耳を傾けることができたのです。神のすばらしい園を管理する者として、彼らは生きた動植物の世話をしながら、知識と技術を増し加えました。また、毎日「風の吹くころ」(創3:8)、彼らは神と特別な時間を過ごしました。とりわけ、神の創造の業の不可欠な部分である安息日は、神とその子らの交わりのために特別にささげられた時とされていました(同2:2、3、出20:8～11)。その安息日に、私たちの最初の両親は、彼らに対する神の愛と配慮を特別な形で体験したのです。

今日の私たちが、はるか昔の罪に堕ちる前の世界を想像することは困難ですが、自然界は今でも、どのように神の最初の創造の姿を指し示してくれますか。

5

創 1:27、28 （新共同訳）

1:27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。

1:28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

創 2:15～23 （新共同訳）

2:15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。

2:16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。

2:17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

2:18 主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」

2:19 主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。

2:20 人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。

2:21 主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。

2:22 そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、

2:23 人は言った。「ついに、これこそわたしの骨の骨/わたしの肉の肉。これをこそ、女（イシャ）と呼ぼう/まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」

創 1:27、28 （口語訳）

1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。

1:28 神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。」

創 2:15～23 （口語訳）

2:15 主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。

2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」

2:18 また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」

2:19 そして主なる神は野のすべての獣と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。

2:20 それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。

2:21 そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。

2:22 主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。

2:23 そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。」

創 3:8、9 (新共同訳)

3:8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、

3:9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」

創 2:2、3 (新共同訳)

2:2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。

2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

出 20:8～11 (新共同訳)

20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。

20:9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、

20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。

20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

創 3:8、9 (口語訳)

3:8 彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

3:9 主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。

創 2:2、3 (口語訳)

2:2 神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。

2:3 神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである。

出 20:8～11 (口語訳)

20:8 安息日を覚えて、これを聖とせよ。

20:9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

20:10 七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。

20:11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。

月曜日 9月28日 神から隠れる

「神は愛である」ゆえに(Ⅰヨハ4:8)、人間を「ロボット」のように創造しようとされませんでした。愛には選択が含まれています。愛することができるためには、アダムとエバは自由意志を持って創造されねばなりません。そうでなければ、愛、真の愛を与えることは不可能だったでしょう。

したがって、アダムとエバには、創造主に従うか否かを選ぶ自由がありました。この自由選択の現実には、善悪の知識の木から取って食べてはならないという命令に示されています(創2:15～17参照)。そもそも彼らに食べる自由がなかったとしたら、なぜそうしないように警告したのでしょうか。

「われわれの祖先は、罪なく清いものに造られたが、罪を犯す可能性がなかったのではない。神は、彼らを自由意志を持った道徳的行為者として創造された。彼らは、神の品性の知恵と慈悲、また、神の要求の正当性を理解し、完全な自由のもとに、服従か不服従かを決定することができた。彼らは、神と聖天使たちとの

交わりを楽しむことになっていた。……選択の自由がないと、彼の服従は自発的なものではなくて、強制されたものとなる」(『希望への光』21、22 ページ、「人類のあけぼの」第2章)。

問2 アダムとエバは創造主の命令に背いたあと、なぜ創造主から隠れようとしたのですか(創3:1～8 参照、エレ23:24、ヘブ4:13と比較)。

創世記3章は、恐ろしい場面を描いています——アダムとエバの墮罪です。蛇(サタン)とエバとの劇的な会話のあと、私たちの最初の両親は、「善悪の知識の木」〔口語訳「善悪を知る木」(創2:17)〕から取って食べるように誘惑されます。それは、禁じられていた行為でした。サタンは、言葉、感情、心地よい誘惑の力を用いてエバを説得し、続いて彼女はアダムを説得し、神の命令に背かせました。エバは、その木が「いかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆してい(る)」〔口語訳「食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われた」〕(創3:6)ことに注目します。「神のように善悪を知るものとなる」〔口語訳「神のように善悪を知る者となる」〕(同3:5)というサタンの約束は、彼らにとって抗いがたく聞こえました。

実際には、サタンの教えは誤りに満ちていました。サタンは彼らの不従順の結果を隠しました。神に逆らったあと、彼らの目はすぐに「開け、自分たちが裸であること」〔口語訳「開け、自分たちの裸であること」〕に気づきました。神の「かたち」を映し出していた光と栄光の神の「衣」(詩編〔詩篇〕104:1、2)は消え去り、彼らはもはや、神が与えてくださったものによって覆われていませんでした。アダムとエバが創造主から身を隠したのも不思議ではありません(まるで神から隠れることが本当に可能であるかのように)。彼らが隠れようとしたのは、罪が人に罪悪感を抱かせ、その罪悪感の中で、人は神の前から逃げなくなるからです。

【参考】英語テキストにある英文

What has been your own experience with shame and seeking to hide from God after you have sinned?

罪を犯した後、恥ずかしさを感じたり、神から身を隠そうとしたりしたあなた自身の経験はどんなものだったでしょうか。

I ヨハ4:8 (新共同訳)
4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。
創2:15～17 (新共同訳)
2:15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。
2:16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。

I ヨハ4:8 (口語訳)
4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。
創2:15～17 (口語訳)
2:15 主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。
2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

2:17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

創 3:1～8 （新共同訳）

3:1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

3:2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。」

3:3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

3:4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。」

3:5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

3:6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

3:7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

3:8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、

エレ 23:24 （新共同訳）

23:24 誰かが隠れ場に身を隠したなら/わたしは彼を見つけれないと言うのかと/主は言われる。天をも地をも、わたしは満たしているではないかと/主は言われる。

ヘブ 4:13 （新共同訳）

4:13 更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。

詩 104:1、2 （新共同訳）

104:1 わたしの魂よ、主をたたえよ。主

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬであろう。」

創 3:1～8 （口語訳）

3:1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。

3:2 女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、

3:3 ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。

3:4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。」

3:5 それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。

3:6 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

3:7 すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

3:8 彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

エレ 23:24 （口語訳）

23:24 主は言われる、人は、ひそかな所に身を隠して、わたしに見られないようにすることができようか。主は言われる、わたしは天と地とに満ちているではないか。

ヘブ 4:13 （口語訳）

4:13 そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。

詩 104:1、2 （口語訳）

104:1 わがたましいよ、主をほめよ。わが

よ、わたしの神よ、あなたは大きいなる方。
栄えと輝きをまとい

104:2 光を衣として身を被っておられる。天を幕のように張り

神、主よ、あなたはいとも大いにして誉
と威厳とを着、

104:2 光を衣のようにまとい、天を幕の
ように張り、

火曜日 9月29日 神は人間を捜される

創世記3:9、10から、罪に堕ちたご自分の子らを神が進んで捜されたことを知ることができます。「どこにいるのか」という問いは、修辭的なものでした。なぜなら、神はアダムとエバの行ったことも居場所もご存じだったからです。しかし罪によって、神と最初の人間の夫婦との間に存在していた通常の交わりは断たれてしまいました。そして神の差し迫った関心は、ご自分の子らとの交わりを回復し、彼らと会い、絶望の中にある彼らに希望を与えることでした。実際、創世記3:9のヘブライ語動詞「カラー」（呼ぶ）は、神がご自分の民との交わりを確立するために呼びかける様子を表現する際にしばしば用いられています。

問3 ルカ 15:11～32 を読んでください。このたとえは、創世記 3:9、10 で起こった出来事を、いかに反映していますか。

神がアダムとエバを捜されたことは、ご自分の子らに対する無条件の愛を明らかにしています。神は決して私たちをお見捨てになりません（ルカ 15 章参照）。たとえ私たちが隠れてしまっても、神は私たちとの交わりを回復するためにどんな苦勞も惜しまれません。イエスが十字架につけられる前、ペトロが彼を三度否認したとき、キリストは、「振り向いてペトロを見つめられ」【口語訳「振りむいてペテロを見つめられ」】（ルカ 22:61）しました。言葉はなくとも、イエスはペトロ（ペテロ）に「語りかけ」、過ちを犯した友に近づこうとされたのです。

創世記3:11～13で、罪がいかにアダムとエバの関係を急変させたかに注目してください。彼らはそれぞれの罪を告白する代わりに、相手を責め始めました。アダムはエバを責め、さらに間接的に、エバを与えられた神をも責めました。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました」【口語訳「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」】（創 3:12）と、アダムは言いました。一方、エバは自分の不従順を蛇のせいにしました。「蛇がだましたので、食べてしまいました」【口語訳「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」】（同 3:13）というのが彼女の言い訳でした。少なくとも最初に罪を問われたとき、2人とも自分の罪を認めようとしませんでした。

現実として、罪は全人類に影響を与えています。使徒パウロはローマ7:15～24で、私たちの状況を的確に描写しています——「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです」【口語訳「わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲す

る事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである」(ロマ7:15)。誰もが共感できるのではないのでしょうか。

パウロは、私たちの唯一の希望が「わたしたちの主イエス・キリストを通して」(口語訳「わたしたちの主イエス・キリストによって」)(ロマ7:25)の解放であると述べています。だからこそ神は、私たちをイエスのもとへ導こうと捜し続けておられるのです。

【参考】英語テキストにある最後の一文を記載します。

This is why God continues to seek us to lead us to Jesus, who alone can mold us into His image and save us from the devastation caused by sin.

だからこそ神は、私たちをイエスのもとへ導こうと捜し続けておられるのです。イエスだけが、私たちを神の御姿に似せて形作り、罪によってもたらされる破滅から救い出すことができる唯一のお方だからです。

7

創3:9～13 (新共同訳)

3:9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」

3:10 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」

3:11 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

3:12 アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてください。あなたが、木から取って与えたので、食べました。」

3:13 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

ルカ 11:11～32 (新共同訳)

11:11 あなたがたの中に、魚を欲しがると子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。

11:12 また、卵を欲しがると、さそりを与える父親がいるだろうか。

11:13 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

11:14 イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆した。

創3:9～13 (口語訳)

3:9 主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。

3:10 彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。

3:11 神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」。

3:12 人は答えた、「わたしと一緒にしてください。あなたが、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」。

3:13 そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。

ルカ 11:11～32 (口語訳)

11:11 あなたがたのうちで、父であるものは、その子が魚を求めるのに、魚の代わりにへびを与えるだろうか。

11:12 卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。

11:13 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるのか」。

11:14 さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、物を言えなくする霊であった。悪霊が出て行くと、口のきけない人が物を言うようになったので、群衆は不思議に思った。

11:15 しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、

11:16 イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。

11:17 しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。

11:18 あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。

11:19 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。

11:20 しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。

11:21 強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。

11:22 しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。

11:23 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」

11:24 「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。

11:25 そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。

11:26 そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」

11:27 イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。「なんと幸いなことでしょう、あなたが宿した胎、あなたが吸った乳房は。」

11:15 その中のある人々が、「彼は悪霊のかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言い、

11:16 またほかの人々は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。

11:17 しかしイエスは、彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ国が内部で分裂すれば自滅してしまい、また家が分れ争えば倒れてしまう。

11:18 そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、

11:19 もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。

11:20 しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである。

11:21 強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。

11:22 しかし、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである。

11:23 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。

11:24 汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわりますが、見つからないので、出てきた元の家に帰ろうと言って、

11:25 帰って見ると、その家はそうじがしてある上、飾りつけがしてあった。

11:26 そこでまた出て行って、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりももっと悪くなるのである。」

11:27 イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言った、「あなたが宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」。

11:28 しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

11:29 群衆の数がますます増えてきたので、イエスは話し始められた。「今の時代の者たちはよこしまだ。しるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。」

11:30 つまり、ヨナがニネベの人々に対してしるしとなったように、人の子も今の時代の者たちに対してしるしとなる。

11:31 南の国の女王は、裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。ここに、ソロモンにまさるものがある。

11:32 また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。」

ルカ 22:61 (新共同訳)

22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。

ロマ 7:15~25 (新共同訳)

7:15 わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。

7:16 もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。

7:17 そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。

7:18 わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。

7:19 わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。

11:28 しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」。

11:29 さて群衆が群がり集まったので、イエスは語り出された、「この時代は邪悪な時代である。それはしるしを求めるが、ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。」

11:30 というのは、ニネベの人々に対してヨナがしるしとなったように、人の子もこの時代に対してしるしとなるであろう。

11:31 南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために、地の果からはるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいる。

11:32 ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。

ルカ 22:61 (口語訳)

22:61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

ロマ 7:15~25 (口語訳)

7:15 わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからです。

7:16 もし、自分の欲しない事をしてしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。

7:17 そこで、この事をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:18 わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。

7:19 すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行

7:20 もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。

7:21 それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。

7:22 「内なる人」としては神の律法を喜んでいます。

7:23 わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。

7:24 わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。

っている。

7:20 もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:21 そこで、善をしようとするわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。

7:22 すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、

7:23 わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。

7:24 わたしは、なんとというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである。

水曜日 9月30日 園から追放される

アダムとエバの罪がもたらした最も悲惨な結果の一つは、神との分離でした。彼らは園から追放され、もはや顔と顔を合わせて神と話すことができなくなりました。預言者イザヤは、この困難な人間の状況について、印象深く記しています——「お前たちの悪が/神とお前たちとの間を隔て/お前たちの罪が神の御顔を隠させ/お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ」〔口語訳「あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ」〕(イザ 59:2)。

実のところ、アダムとエバは依然として神の子らでした。しかし、罪の結果は避けられず、彼らはエデンを去らなければならなかったのです。彼らの不従順のあと、何もかもが変わってしまいました。

問4 罪は多くの点で人類を変えましたが(創 3:14~24 参照)、具体的に神との交わりをどう変えましたか(出 19:16~22 も参照)。

罪は、私たちには想像もつかないほど人間の生活をすっかり変えてしまいました。それは、私たちが罪のある世界しか知らないからでもあります。罪のゆえに、土は「呪われ」〔口語訳「地は……のろわれ」(創 3:17)〕、「茨とあざみ」〔口語訳「いばらと

あざみ」(創3:18))を生えいでさせることになりました。人間は今や苦痛を経験し、自らの糧を得るために「汗を流さ」(創3:19)ねばならなくなり、最終的に死んで土に帰るだけとなりました。罪を思い起こさせるあらゆるものの中で、死は依然として最も強烈なものです。同時に、私たちは罪のゆえに、顔と顔を合わせて神と交わることを失いました。

しかし、アダムとエバには、罪の荒廃に対抗する解決策が約束されました。私たちの最初の両親は、神に直接会ったり話したりすることはできませんでしたが、彼らは現在と将来への希望を抱いてエデンを去りました。神が率先して救済計画を彼らに説明してくださったのです。

「原福音(最初の福音の約束)」と呼ばれる創世記3:15は、起こってしまった出来事にもかかわらず、彼ら(と私たち)にとっての希望に満ちていました。救い主が来られるという約束は、罪に対する現在の敵意と、人類の将来の救済への希望を与えるものでした。実際、アダムとエバが園を去る前に神が衣をお与えになったことは、彼らの将来の救済を象徴する行為だったのです。イエスの将来の死と復活を通して、神との交わりが回復されることになっていました(ヨハ14:1~3)。

つまり、まさにエデンにおいて、罪が入り込んだ直後に、罪の問題が最終的に解決されるという希望と約束を、人類は与えられたのです。罪が生じるや否や、救い主の約束も与えられたのでした。

【参考】英語テキストにある文

How have you felt after doing something that was not right? Guilt? Shame? Self-loathing? What were the consequences? How did your faith in God, and the promise of the gospel, keep you from giving up on faith entirely?

自分が正しくないことをしてしまった後、どんな気持ちになりましたか。罪悪感、羞恥心、あるいは自己嫌悪でしょうか。その結果、どんなことが起きましたか。神への信仰と、福音の約束は、あなたが信仰を完全に諦めてしまわないように、どのように支えてくれましたか。

イザ 59:2 (新共同訳)

59:2 むしろお前たちの悪が/神とお前たちとの間を隔て/お前たちの罪が神の御顔を隠させ/お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。

創 3:14~24 (新共同訳)

3:14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は/あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で/呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

3:15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に/わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き/お前は彼のかかとを砕く。」

イザ 59:2 (口語訳)

59:2 ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

創 3:14~24 (口語訳)

3:14 主なる神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう。

3:15 わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」。

3:16 神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め/彼はお前を支配する。」

3:17 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い/取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。」

3:18 お前に対して/土は茨とあざみを生えい/でさせる/野の草を食べようとするお前に。

3:19 お前は顔に汗を流してパンを得る/土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」

3:20 アダムは女をエバ(命)と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。

3:21 主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。

3:22 主なる神は言われた。「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある。」

3:23 主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた。

3:24 こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。

出 19:16～22 (新共同訳)

19:16 三日目の朝になると、雷鳴と稲妻と厚い雲が山に臨み、角笛の音が鋭く鳴り響いたので、宿営にいた民は皆、震えた。

19:17 しかし、モーセが民を神に会わせるために宿営から連れ出したので、彼らは山のふもとに立った。

19:18 シナイ山は全山煙に包まれた。主が火の中を山の上に降られたからである。煙は炉の煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。

19:19 角笛の音がますます鋭く鳴り響いたとき、モーセが語りかけると、神は雷鳴をもって答えられた。

3:16 つぎに女に言われた、「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう」。

3:17 更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。」

3:18 地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう。

3:19 あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

3:20 さて、人はその妻の名をエバと名づけた。彼女がすべて生きた者の母だからである。

3:21 主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。

3:22 主なる神は言われた、「見よ、人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸べ、命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない」。

3:23 そこで主なる神は彼をエデンの園から追い出して、人が造られたその土を耕させられた。

3:24 神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

出 19:16～22 (口語訳)

19:16 三日目の朝となって、かみなりと、いなずまと厚い雲とが、山の上にあり、ラッパの音が、はなはだ高く響いたので、宿営におる民はみな震えた。

19:17 モーセが民を神に会わせるために、宿営から導き出したので、彼らは山のふもとに立った。

19:18 シナイ山は全山煙った。主が火のなかであって、その上に下られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山はげしく震えた。

19:19 ラッパの音が、いよいよ高くなったとき、モーセは語り、神は、かみなりをもって、彼に答えられた。

19:20 主はシナイ山の頂に降り、モーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。

19:21 主はモーセに言われた。「あなたは下って行き、民が主を見ようとして越境し、多くの者が命を失うことのないように警告しなさい。」

19:22 また主に近づく祭司たちも身を清め、主が彼らを撃たれることがないようにしなさい。」

ヨハ 14:1～3 (新共同訳)

14:1 「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」

14:2 わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。

14:3 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのものと迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。

19:20 主はシナイ山の頂に下られた。そして主がモーセを山の頂に召されたので、モーセは登った。

19:21 主はモーセに言われた、「下って行って民を戒めなさい。民が押し破って、主のところにきて、見ようとし、多くのものが死ぬことのないようにするためである。」

19:22 主に近づく祭司たちにもまた、その身をきよめさせなさい。主が彼らを打つことのないようにするためである。」

ヨハ 14:1～3 (口語訳)

14:1 あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。

14:3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

木曜日 10月1日 神の代弁者

問5 以下の聖句は、罪が入り込んだあと、神が人類にどのように語りかけてこられたかについて、どんなことを明らかにしていますか(ヘブ 1:1、2、ロマ 1:19、20、民 12:6、Ⅱテモ 3:16、17、ヨハ 14:7～9、10:27～30)。

罪があるにもかかわらず、神は墮落した人間に語りかける多くの方法を見いだされました。神がご自身を私たちに示される方法の一つは、被造物を通してです。自然界は神のすばらしい業を力強く示しています。科学者たちは、この宇宙の驚異や、「最も単純な」生命でさえ持つ複雑さに驚嘆しています。また、自然界は墮罪の結果をも示しており、すべての生き物の死が最も強烈な例です。

神が人類に語りかけてこられたもう一つの方法は、預言者、つまり神が代弁者として選ばれた人々を通してです。例えば、神は、ノア、アブラハム、モーセ、ダニエルに語りかけ、ご自分の民に対する御心を明らかにされました。本質的に神の預言のメッセージは、神がご自分の子らを忘れておらず、今もなお彼らと共におられることを思い出させることです。預言者の中には、聖書として私たちに伝えられるようになったものを書いた者もいれば、まったく記さなかった者もいます。

しかし、預言者の言葉の多くは、聖書を通して伝えられました(Ⅱテモ 3:16, 17)。聖書は神ご自身の啓示です。私たちは神の言葉を通して、神がどのようなお方であるかを知り、神の変わらぬ愛を知り、私たちがいかに生きるべきかについての神の導きを発見するのです。さらに、聖書を通して、私たちは自分が何者であり、どこから来て、どこへ向かっているのかを理解します。そこに、私たちの人生に対する神の目的を見いだすのです。

しかし、神が私たちに語りかけられる最も効果的な方法は、言うまでもなく、聖書の中で私たちに啓示されているイエス・キリストを通してです。神がエデンの園でアダムとエバを捜されたように、キリストは、「失われたものを捜して救うために」〔口語訳「失われたものを尋ね出して救うため」〕(ルカ 19:10)来られ、「わたしを見た者は、父を見たのだ」〔口語訳「わたしを見た者は、父を見たのである」〕(ヨハ 14:9)と明言されました。キリストは、その生涯、死、復活を通して、エデンでアダムとエバに与えられた約束を成就されたのです。キリストが来られ、私たちの代わりに死なれたのは、私たちが彼を通して永遠の命を得ることができるようになるためでした。

イエスが昇天されたあとには、聖霊が私たちを「導いて真理をことごとく悟らせ、……これから起こることを……告げる」〔口語訳「あらゆる真理に導いてくれ……、きたるべき事を……知らせる」〕(ヨハ 16:13)のために働き続けておられます。

【参考】英語テキストにある文

How much comfort do you get from knowing that Jesus, His love, His character, and His self-sacrifice reveal to us what God the Father is really like?

イエス様、その愛、ご品性、そしてその自己犠牲を通して、父なる神が実際にどのようなお方であるかを私たちに示されるという事実を知ることから、あなたはどれほど慰めを得ているでしょうか。

ヘブ 1:1、2 (新共同訳)

1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、

1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。

ロマ 1:19、20 (新共同訳)

1:19 なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。

1:20 世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。

ヘブ 1:1、2 (口語訳)

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

ロマ 1:19、20 (口語訳)

1:19 なぜなら、神について知りうる事がらは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。

1:20 神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。

民 12:6 (新共同訳)

12:6 主はこう言われた。「聞け、わたしの言葉を。あなたたちの間に預言者がいれば、主なるわたしは幻によって自らを示し、夢によって彼に語る。

Ⅱテモ 3:16、17 (新共同訳)

3:16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうに有益です。

3:17 こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

ヨハ 14:7～9 (新共同訳)

14:7 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」

14:8 フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、

14:9 イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。

ヨハ 10:27～30 (新共同訳)

10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

10:28 わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。

10:29 わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。

10:30 わたしと父とは一つである。」

ルカ 19:10 (新共同訳)

19:10 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

ヨハ 16:13 (新共同訳)

16:13 しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分が

民 12:6 (口語訳)

12:6 彼らに言われた、「あなたがたは、いま、わたしの言葉を聞きなさい。あなたがたのうちに、もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻をもって、これにわたしを知らせ、また夢をもって、これと語るであろう。

Ⅱテモ 3:16、17 (口語訳)

3:16 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。

3:17 それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである。

ヨハ 14:7～9 (口語訳)

14:7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである。」

14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します。」

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしが分かかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

ヨハ 10:27～30 (口語訳)

10:27 わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。

10:28 わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。

10:29 わたしの父がわたしに下さったものは、すべてにまさるものである。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。

10:30 わたしと父とは一つである。」

ルカ 19:10 (口語訳)

19:10 人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。」

ヨハ 16:13 (口語訳)

16:13 けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのでは

ら語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

なく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

金曜日 9月2日 エレン・ホワイト

神の語りかけは、聖書の時代だけに限られたものではありません。今後数週間にわたって見ていくように、神は永遠に人間に語りかけ、キリストが戻られるまで、その御言葉は現代的な形であらわされるでしょう。

エレン・グールド・ハーモン・ホワイトと双子の姉妹エリザベスは、1827年11月26日、米国メイン州ゴースムで生まれました。2人は、ユースとロバート・ハーモン夫妻の8人兄弟の末っ子でした。数年後、一家はメイン州ポートランド市に移り住み、ロバート・ハーモンはそこで帽子作りの事業を拡大しようと考えました。9歳のとき、エレンは、身体的、精神的、社会的に影響を受ける怪我を負いました。自宅近くの公園にいたところ、怒った同級生の投げた石がエレンの顔面を直撃し、彼女は数週間にわたって半昏睡状態に陥ったのです。この事故により、突然、エレンは正規の教育を受けることができなくなり、生涯にわたる健康上の問題を抱えることになりました。顔の怪我のせいで、彼女は自分の容姿を気にするようになり、社会的な交わりも制限されました。

このような不確かな状況の中で、若きエレン・ハーモンは自分の霊的運命について考え始めました。彼女は神を恐れ、自分が天国にふさわしくないと感じていたのです。ハーモン一家が、イエスの再臨が近いというミラー派の教理を受け入れたことで、その恐怖心はさらに強まりました。1842年にメソジスト教会で沈めのバプテスマを受けたあとも、エレンは、自分が神の愛を受けるに値しないと感じていました。自分は「永遠に失われた」と、彼女は信じていたのです（『エレン・G・ホワイト略伝』29ページ、20～31ページも参照、英文）。

こうした苦悩に満ちた思いの中、若きエレンは二つの夢を見、神に対する考えを変え始めます。しかし、メソジスト派の説教者リーバイ・ストックマンに出会うまで、彼女は神の愛と恵みを理解し、感じることはありませんでした。それはまるで、絶望の中にある彼女に神が語りかけてくださったかのような感じでした。「信仰が今、私の心を捉えた」と、彼女はのちに記しています。「私は、神への言いあらわせないほどの愛を感じ、私の罪が赦されたという聖霊の証しを得た。父なる神に対する私の見方は変わった。今や私は神を、盲目的な服従を人々に強いる厳格な暴君ではなく、優しく憐れみ深い親として見るようになったのである。私の心は、深く燃えるような愛をもって神に向かった」（『エレン・G・ホワイト略伝』39ページ、英文）。同時に、エレン・ホワイトは「死者の状態」という教理も理解し、永遠に燃え続ける地獄は存在しないという考えを徐々に把握していきました。神とその愛に関する彼女の新たな理解は、彼女の態度を完全に変えました。今後数週間、毎週金曜日に私たちが学んでいくように、エレン・ホワイトはイエスを深く恋い慕い、残りの人生をかけて彼に仕えました。